

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	おおがわらあきまるせん 大川原旭丸線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	上勝町・神山町・佐那河内村																	
事業概要	【目的】 本路線は、名東郡佐那河内村上字大川原の村道元山槻地線を起点とし、佐那河内村、神山町、上勝町の境界となる稜線沿いを通過して、上勝町大字生実字殿川内の町道剣山線に至る森林基幹道である。周辺の町道、林道、作業道に連絡し、当該地域の森林資源の合理的な森林経営に資するための重要な基盤として機能させることにより、森林整備の推進による森林の持つ公益的機能の維持増進を図ると共に災害時には迂回路として機能させることも目的としている。																			
	【内容】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 30%;">1,020ha</td> <td style="width: 40%;">[人工林面積:812ha (80%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>207戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>4.0m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>16,240m</td> <td>(うち平成30年度末の供用予定延長 15,614m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>2,905,140千円</td> <td>(うち平成30年度末の実施予定事業費 2,762,577千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>平成3年度～平成33年度</td> <td>(31年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	1,020ha	[人工林面積:812ha (80%)]	受益戸数(森林所有者数)	207戸		幅員	4.0m		計画延長	16,240m	(うち平成30年度末の供用予定延長 15,614m)	総事業費	2,905,140千円	(うち平成30年度末の実施予定事業費 2,762,577千円)	事業予定期間	平成3年度～平成33年度
利用区域面積	1,020ha	[人工林面積:812ha (80%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	207戸																			
幅員	4.0m																			
計画延長	16,240m	(うち平成30年度末の供用予定延長 15,614m)																		
総事業費	2,905,140千円	(うち平成30年度末の実施予定事業費 2,762,577千円)																		
事業予定期間	平成3年度～平成33年度	(31年間)																		
評価	【事業の進捗状況】 平成4年度より工事着工し、平成30年度末までに15,624mの開設され(予定も含み)、進捗率は96%となっており、早期完成を目指している。 <div style="text-align: right;">[進捗率:96.1%]</div>																			
	【関連事業の整備状況】 当該路線は、起点側から村道元山槻地線、林道梅ノ木線、町道雄中面線、町道野間殿川内線等に接続しており、路網のネットワーク化が図られる。また、供用開始区間においては林業プロジェクトの推進に資するため、平成17年度から平成29年度までに、84.8haの搬出間伐を実施している。																			
評価項目	【社会経済情勢の変化】 本県は県土の75%を森林が占め、人工林率も62%と高い。森林資源は、人工林を中心に、の40年間で約3倍にまで増加しており、特にスギ人工林は、今後5年間で樹齢50年生以上が50%を超え、成熟期を迎えており、当該路線に係る森林資源については、人工林面積の80.8%がスギであり、うち53.7%は36年～50年生と、搬出間伐の適期を迎えている。 県内には、製材業や家具製造業のほか、「合板工場」や「MDF工場」、「大型製材工場」など、多様な加工体制を有しており、県産木材の安定供給体制の整備が重要であるが、加えて、国産材需要は増加傾向にあり、川上と川下が一体となった取り組みを総合的に進めることが必要である。 県では平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目的とした「次世代林業プロジェクト」を推進し、木材生産量や林業従事者の増加など成果を上げている。平成27年7月からは林業の一步先の未来を切り開く「新次元林業プロジェクト」を展開、主伐から造林、保育までの「森林サイクル」を取り戻し、雇用の創出とともに、森林資源の循環利用による森林・林業を核とした「地方創生」の実現を目指している。 目標を達成するうえで、主伐にも対応した「新林業生産システム」の導入と併せて、路網整備の推進が必要不可欠となっており、こうした背景のもと関係町村内の林業事業体で高性能林業機械を使用し、積極的に施業に取り組んでいる。 また当該地域の稜線においては風力発電の設置工事が始まり、機材等の輸送ルートとしても利用される。																			
	【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 なし																			
評価項目	【事業効果の発現状況】 供用を開始した区間において平成29年度までに間伐をはじめとして延べ約1,098haの森林施業が実施され、間伐材の搬出が増え、今後は「新次元林業プロジェクト」により、間伐101ha、材積では8,0545m ³ の搬出を計画している。また、供用区間の増加に伴い、森林へのアクセス改善による高性能林業機械を導入した森林施業が行いやすくなることから、森林施業が進んでいく見込みである。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.44 (国の採択基準は1.0以上)</div>																			
	【受益者・関係機関の意向】 ・関係町村をはじめ地元より事業の早期完成を強く望まれており、期成同盟会の活動も活発である。 ・また、緊急時の避難路及び迂回路、大川原高原からスーパー林道にアクセスできる観光道としての機能も持ち合わせており大いに期待されている。																			
【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。																				